

雑 想

大谷 博康

私には長州人の血が流れている。生れは大阪府吹田市、育ちは福岡県筑豊の直方市である。両親も祖父母も皆、長州人だった。親戚も多くがそうだ。幼い時からそういう周りの大人に育てられてきた。

今年のNHK大河ドラマ「花燃ゆ」の舞台の萩がまさしく長州である。その中に登場する吉田松陰は典型的な長州人であろう。長州人は、どういう行動を起こすにしても、その前後に理屈付けをしたがり、議論好きで演技の多いのは、長州人の癖であるといわれている。天下国家を論じることが大好きなのは、土地柄と歴史の産物だろうか。自分自身の性格として、そういうものに共感するのは、そこにつながりがあるのかと、ひとりで納得している。

人にはそれぞれ異なった性格があり、それをひとくくりすることは無茶であると思うが、血液型でA型の人とは・・・、B型の人とは・・・ということを目にすることがあるように、県民性で共通点を認識することも良くあることだと思う。

幕末の時代に、幕府の力が弱くなり、各地に討幕の動きが出てくるが、その旗印に尊王攘夷を掲げて動きだし、天下を取ると、あっという間に開国の方向に転換した。その間に、諸外国の力とわが国の現状の差を学び、体験した結果だろうが、果たしてそれだけであろうか。

そもそも日本人がそういう国民性を持っているのではないかと思う。昭和の太平洋戦争敗戦の時も同様の現象が起こったように思われる。それまでの日本は神国であると教育されてきた国民が、押し付けられたアメリカの文化に簡単に180度転換し、一気に民主主義の国に変身したのは不思議に思われる。殆どの日本人がそのことを難なく受け入れ、その後の日本の復興から世界の有数の経済大国までに成し遂げたのは、どういう国民性なのだろうか。素晴らしいというのだろうか。

平和憲法を遵守し、戦争絶対反対の平和運動がいつの間にか、国家の存亡の危機ということで集団的自衛権を受け入れられるのではないか。また原発事故直後には断然原発運転反対の声が大きかったのが、やがて日本経済や環境問題に目を向ければ原発再開もやむなしの声が大きくなっていくことも予測される。時の流れであっという間に転換してしまう日本という国を、どう考えればいいのか。

つれづれなるままに、年寄りのたわごとを書いてはみたが、それは一つのさまよえる泡沫に過ぎないのであろう。

最後に私の好きな杜甫の詩を詠んでみる。

明年(みょうねん) 此(こ)の会 誰(たれ)か 健(けん)なるを 知らんや

老境を迎え、親しい友と酒を酌み交わしての感慨を詠ったものだ。来年も達者で会えると誰が分かるか、と言っている。